

悪人正機

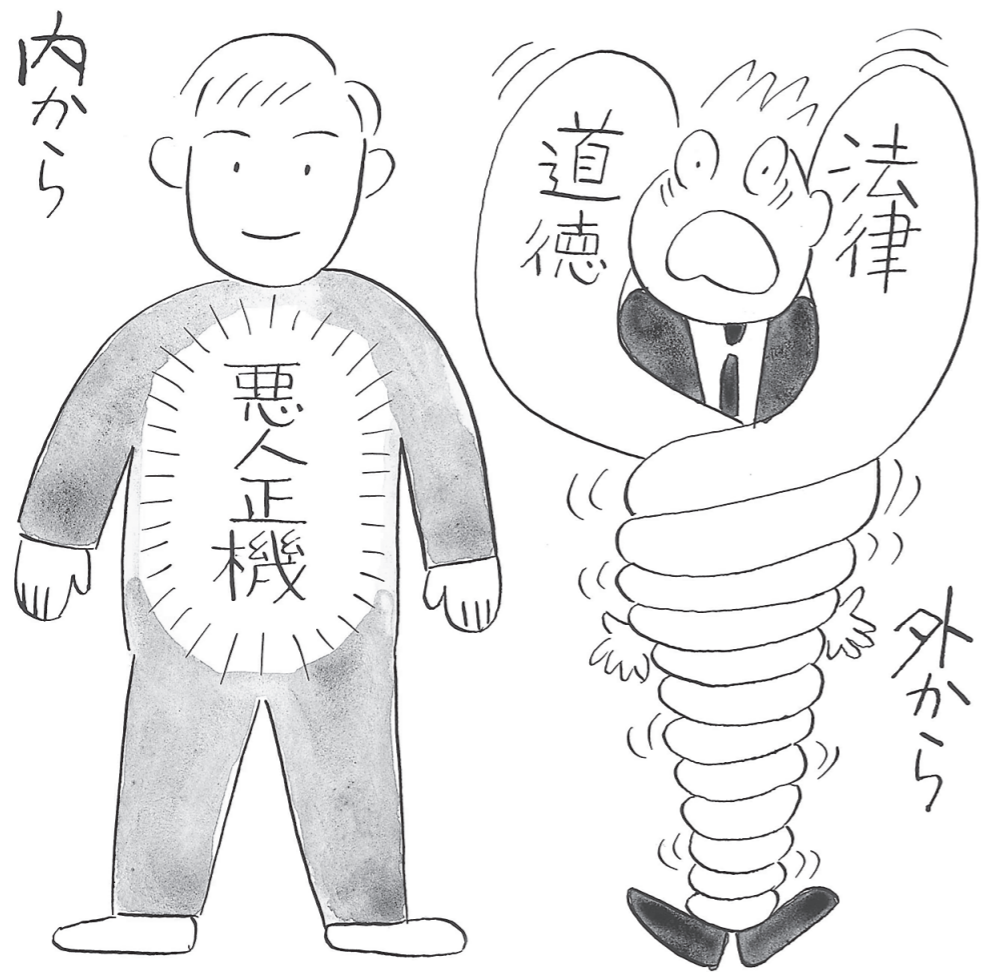
—自らの正体を知る—

浄土真宗のみ教えを伝えるためのキーワード、「往生浄土」「悪人正機」「現生正定聚」「遠相回向」について本願寺派総合研究所の満井秀城副所長に解説していただいています。今号は「悪人正機」です。

悪いことをした方が得？ いつの時代も絶えぬ誤解

悪人正機は浄土真宗の重要な法義の一つですが、他方本願と同様、これも誤解が絶えません。
もう30年以上も前になるかと思いますが、お年寄りから大金を騙し取る悪質な商社会社の会長が、悪人正機を曲解して経営に用いていました。「悪人正機だから、どんな悪いことをしても救われる」「だったら、どんな悪いことをしても救われる」「だったら、どんな悪いことをしても救われる」が得たという誤解になったのでしよう。実際、こういう誤解を持つ人は少なくないと思われ、そのため「悪人正機の教えは、凶悪犯罪を助長する」と考える人もいるようです。

こういう誤解はいつの時代でもあるように、親鸞聖人の時代にも「本願はこれ」と言われるような「わざとすまじきこと(どもをもち)わたくししてはならぬ」という「道悪無礙」の人たちの存在が、親鸞聖人のお手紙によって知られます。悪人正機の法義がなぜ誤解されるのか、悪人正機は本当に凶悪犯罪を助長するのかを考えてみたいと思います。



え/ひじ みえ

み教えの言葉を学ぶ⑤

筆者
満井 秀城



本願寺派総合研究所副所長。司教。

仏側？私側？言葉の主体 勝手に持ち替えて誤解

仏典に説かれる内容は主に、仏と私たち(衆生)との関係についてです。「仏は私たちに、どのようにしたらまきかけてくださるのか」「私たちは、いかにして仏となるのか」といった事柄です。仏と私たちとの関係性についての言説が、それが「仏の側での言葉」なのか、「私たちの側での言葉」なのかを明確にしておかないと、混乱を来すことがしばしばあります。そのため真宗の専門用語として「約仏(仏の側)」「約生(衆生の側)」という区別をしているのです。

いま、悪人正機とは、「阿彌陀如来の願いは、すべての人々を等しく救うことにありますが、特に弱者や力の劣った者を放っておけない」という、仏の側から「賢くなった言葉」なのです。この「約仏」の言葉を、私たちの側の「約生」に勝手に持ち替えてしまえば、「悪人正機なら、悪いことをした方が得た」という誤解になるのです。

仏の側から私たちが「賢くなった時、「悪業を重ねる私たちを嘆きながらも、お見捨てにならない」「お心こそが悪人正機です。この仏さまのお心に触れて、今まで仏さまを泣かせてきたことに気付いた者は、「もって泣かせてやろう」と思うのでしようか。「もつ、これからは、少しでも仏さまを泣かせるようなことばすまじ」と、変わってこくはずですか。

このように、内容的に変わっていくのが悪人正機の法義であり、そここそ念仏者の強みがあると思います。法律や道徳は「してはいけない」と外から縛るものですが、悪人正機の法義は内側から変えられていくのです。

法然聖人のお言葉に、
悪人までをもすて給はぬ本願としらんにつけても、いよいよほとけの知見をばつべし、かなしむべし。父母の慈悲あればとて、父母のまへにて悪を行せんに、その父母よろこぶべしや。なげきながらすす、あはれみながらいんむ也。ほとけも又もてかへのごとし(『和語灯録』「悪

人さへも、お見捨てにならない阿彌陀仏の本願であること知らせていただくにつけて、阿彌陀仏は、いつも「賢くなったおられることを思えば、ますます、自らのあり方を恥じ、悲しまないわけにはいかない。例えば、慈愛深い両親だからといって、その両親の前で悪事を行って、果たして喜ぶだろうか。嘆くに違いない、それでも見捨てないだろう。また、大切には思ってくれても、悪行については許さないはずだ。仏の思いも、まったく同じである。』

と示されていて、親の本當の慈愛に触れた時、子どもの歩みが変わると同じように、仏さまの悪人正機のお心に気付いた時、私たちの歩みが変わるのです。ここに示される「仏の知見」が、現代では見失われているように感じます。だから、人の見ていない所では何をやるかわからない人間が溢れ、そのため、防犯カメラが必需品になってしまったのでしよう。

悪人正機の社会性 自ずと行動が異なってくる

「昨年の12月、アメリカの著名な日刊紙「ニューヨーク・タイムズ」に、アメリカの哲学者2人の、親鸞聖人に関する論稿が一面全体を飾りました。

親鸞のように自らの正体を知っている愚か者たちは、自覚しているだけその無知さが和らげられている。(中略)それは、自分を過信することをやめ、他者の力、あるいはもろさに思いをはせる機会を与えてくれる。(中略)制御不能の瞬間を知ること、私たちがかんじがらめにしていく習慣や思考からみずからを解放するべきを知るこそ、真の思慮深さであり、古来多くの賢者が美德とみなしたのもかもしれない。

(日本語訳) 宗派・寺院活動支援部
〈国際伝道担当〉杉本昌子

縁に触れたら何をやるかわからないものを持っていることに気付いた者へ、そうでない者へは、自ずと行動が異なります。例えば、ガソリンスタンドで給油をしている間、「ちょっと「一服」と思っでタバコにライターで火を点けようとして、もしやものなら、店員さんが飛んできます。ガソリンは引火しやすいという可燃物の危険性を知っている者へ、そうでない者へは、自ずと行動が違ってくる。それが「自らの正体を知っている」、悪人正機の社会性とも言うべきもので、遠くアメリカからそのことを教えてくれたような気がします。

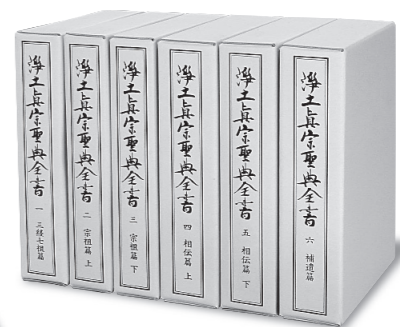
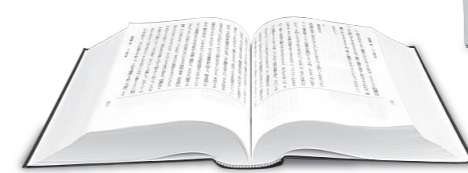
(次回「現生正定聚」)

シリーズ堂々完結! 第六巻ついに発刊

第一巻から第五巻までの収録内容を補完する
典籍・史資料集。法然聖人の著述・法語、
親鸞聖人を中心とした系譜、本願寺成立に関
わる文書等を収載。

1,564頁/本体 6,500円+税

最新刊 第六巻 補遺篇



既刊

全巻 B6 変型判上製/函入

第二巻 宗祖篇上 1,214頁 本体 5,000円+税
『顕浄土真実教行証文類』『三帖和讃』など、宗祖親鸞聖人の著述を収載。

第四巻 相伝篇上 1,566頁 本体 6,500円+税
宗祖の教えを伝える、覚如上人の『報恩講私記』や存覚上人の『浄土真要鈔』などを収載。

第一巻 三経七祖篇 1,428頁 本体 6,000円+税
浄土経の根本聖典である「浄土三部経」及び七高僧の著述を収載。

第三巻 宗祖篇下 1,210頁 本体 5,500円+税
『阿彌陀経註』『西方指南抄』などを収録。前巻とあわせて宗祖の著作を網羅する。

第五巻 相伝篇下 1,456頁 本体 6,000円+税
浄土真宗中興の祖・蓮如上人の「御文章」を含む著書や言行録、さらには関係聖教を網羅する。

浄土真宗の根本と伝統 — 先師の歩まれた道が明らかになる

浄土真宗聖典全書

※FAX番号のお間違いにご注意ください
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺) <http://hongwanji-shuppan.com/>

最新刊 第三巻

親鸞聖人750回大遠忌を機縁として、
これまでの研究成果を反映させ、半
世紀ぶりにより充実した形で再編集
した増補改訂版。

A5判/744頁/函入 本体 5,000円+税



増補改訂 本願寺史

親鸞聖人750回大遠忌を機縁として、これまでの研究成果を
反映させ、半世紀ぶりにより充実した形で再編集した増補改
訂版。本願寺史料研究所 編

第一巻 親鸞聖人のご生涯から戦国時代末期
までの中世における本願寺教団の成立
とあゆみ。
A5判/626頁/函入 本体 5,000円+税

第二巻 安土・桃山時代から江戸時代末期まで
の近世における本願寺教団のあゆみ。
A5判/726頁/函入 本体 5,000円+税